

皇妃エリザベートのダイエット

最近はやりのダイエット。犬や猫までが糖尿病になるという飽食の時代ですから、女性だけでなく男性までもがダイエットに励み、スポーツクラブどころか男性専用エステまでできて、大流行のようです。太らないように、体型を保つように、涙ぐましい努力です。

さて、ヨーロッパの名家、ハプスブルグ家末期、オーストリー皇帝フランツ・ヨーゼフの奥方であるエリザベートという方は、大変美しい人であったそうです。身長172センチ、「白い肌は驚くほど美しく、すらりとした姿は糸杉のよう、つややかな髪が波打つ頭のとっぺんから爪先まで、全身気品にあふれていた。ヨーロッパ宮廷の女性たちのうち、一番美しいお方だ。」と、当時の、ヨーロッパ中の上流女性を見たペルシャの王様が日記に書き残しているそうです。今に残される写真や肖像画からもその美しさがしのばれます。今でも、ヨーロッパでは、その悲劇的な最後もあって、皇妃エリザベートは人気があるそうです。先日、NHK・BSで、「ルートビヒ」という欧州映画を放映していましたが、この映画にも、ルートビヒのいとこであり、憧れの女性として登場していました。馬術が大好きで、サーカスの馬の曲技までやったというのですから、スポーツウーマンでもあり、ずいぶんカッコいい女性だったわけです。

そんな美人でしたから、年をとっても太るのが嫌で、その容姿を保つため、大変なダイエットを続けたようです。若いころは、故郷バイエルンの栄養たっぷりの料理やビール、ケーキも大好きだったそうですが、年を取るにつれてそのような食事は止めてしまい、代わりに、彼女はほとんど毎日、ミルクやジュース、もしくは肉エキスだけを取るようになったというのです。フランツ・ヨーゼフ皇帝が見た肉エキスは、牡牛の肉約6キログラムから搾り出した真っ赤な色をしたエキスだったそうで、それを見たとき、皇帝は吐き気を催したそうです。エリザベート最晩年の60歳のときには「牛乳療法」というダイエットを始めました。「3日間、パンは食べずにミルクとマリーエンバートというドイツの保養地の水を飲むだけで過ごし、4日目にやっとまともな食事をする」、というサイクルを続けたそうです。

1998年9月、エリザベートは、女官の伯爵夫人をお供に、スイスのジュネーブ、レマン湖のほとりにある別荘に友人を訪ねました。友人と楽しい時を過ごし、その帰途、帰りの船に乗ろうと船着場に向かって歩いていたところを、暴漢に襲われます。暴漢の短剣は彼女の胸を8.5cmも突き通しました。エリザベートは、気丈にもそのまま船着場まで歩き、乗船しますが、船中で倒れてしまいました。そして、ホテルに連れ戻され、そこで61年の生涯を終えました。エリザベートは、亡くなる直前の友人との食事では、ダイエットの習慣を破ってたっぷりとコース料理を楽しんだということであり、せめてもの慰めです。

さて、2007年、私は1947年（昭和22年）生まれですから、実は今年が還暦、丁度60歳を迎えました。エリザベートは60歳で、「牛乳療法」という厳しいダイエット生活。私も、ダイエットをと思うのですが、調理師の皆様が、あまりに美味しい料理をお作りになるので、なかなかそうは行きません。どうか皆様、あまり美味しい料理を作らないようお願い申し上げます。